主なラインナップ

特別展 「国宝　鳥獣戯画のすべて」

＜東京国立博物館＞令和3年4月13日（火）～5月30日（日）

墨のみで擬人化した動物や人々の姿を12-13世紀に描いた、日本絵画史上屈指の名品「鳥獣戯画」を展覧会史上初めて、通期で国宝4巻の全場面を展示。

特別展「京の国宝－守り伝える日本のたから－」

＜京都国立博物館＞令和3年7月24日（土）～9月12日（日）

いにしえより伝えられてきた絵画、書跡典籍および古文書、考古および歴史資料、彫刻、工芸の各分野を代表する京都ゆかりの国宝や皇室の至宝60件余りを中心に、約120件を展示。文化財のもつ不滅の魅力とその意義を紹介する。あわせて文化財を守り伝えてきた様々な取り組みも取り上げる。

我が国の名品を公開、自然を生かした技を知る

特別展
「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」

＜東京国立博物館＞
令和3年6月22日（火）～9月12日（日）
＜奈良国立博物館＞
令和4年2月5日（土）～3月27日（日）

国宝
十一面観音菩薩立像
（部分）
奈良・聖林寺

三輪山をご神体とする大神神社境内の寺にあった仏像等を紹介。
明治元年の神仏分離令によって神社を出てから約150年ぶりに同じ空間に並ぶ。
日本の仏像の中で屈指の名宝である聖林寺十一面観音像が奈良県を出るのは初めてである。

特別展「聖徳太子と法隆寺」

＜奈良国立博物館＞令和3年4月27日（火）～6月20日（日）
＜東京国立博物館＞令和3年7月13日（火）～9月5日（日）

国宝
聖徳太子および侍者像のうち
聖徳太子
平安時代　保安2年（1121）
奈良・法隆寺蔵
奈良展、東京展ともに通期展示

令和3（2021）年は、聖徳太子の1400年遠忌という節目の年にあたる。これを記念して特別展「聖徳太子と法隆寺」を開催し、誰もが知る聖徳太子の偉業に今一度触れる機会を創出する。
本展覧会では、法隆寺の宝物から、太子の姿を偲ぶ肖像や威徳を讃える法会の品々、飛鳥・白鳳期の仏像等を紹介する。
太子の人となりや太子への篤い信仰を物語る品々が、1400年の時を超えて一堂に会するまたとない機会である。

北斎と江戸の文化
特別展「冨嶽三十六景への挑戦　北斎と広重」

＜東京都江戸東京博物館＞令和3年4月24日（土）～6月20日（日）

「冨嶽三十六景　神奈川沖浪裏」
葛飾北斎・画　　天保2～4年（1831～33）頃
東京都江戸東京博物館蔵

葛飾北斎の代表作「冨嶽三十六景」全点とともに、北斎を乗り越えようとした歌川広重の作品もあわせて展示し、日本人が古くから親しみ、崇めてきた富士山をはじめとする風景画に、二人の絵師がどう挑んだのかを浮き彫りにする。

企画展「イサム・ノグチ　発見の道」
－日本の伝統と自然美に触れるプログラム－

＜東京都美術館＞令和3年4月24日（土）～8月29日（日）

「あかり」
インスタレーション（イメージ）
撮影：齋藤さだむ

20世紀を代表する芸術家イサム・ノグチ（1904－1988）の業績を振り返る展覧会。国内外から作品を集め大型彫刻を中心に約90件を展示する、ノグチの個展としては国内過去最大級の規模である。
岐阜の伝統工芸である提灯づくりから想を得た「あかり」シリーズ約150灯が集合する空間を創出し、日本特有の和紙や竹の質感を生かしたやわらかな光が会場を彩るなどのインスタレーションも楽しめる。

※令和3年度採択事業のほか、令和3年度に実施される過年度採択事業も掲載しております。

主なラインナップ

日本の「衣食住」を通観し、自然と対話する

特別展
「ファッション イン ジャパン 1945－2020－流行と社会」

＜島根県立石見美術館＞
令和3年3月20日（土・祝）～5月16日（日）
＜国立新美術館＞
令和3年6月9日（水）～9月6日（月）

第二次世界大戦後から現在までを中心に、日本人の装いの文化を改めて紹介する展覧会。衣服を作り提供する者、着用し消費する者、その両方をつなぐメディア、この三者がからみあいながら展開した創造的ありようを、時代を追いながら社会的背景もふくめて考察。

隈研吾展
新しい公共性をつくるためのネコの5原則

＜東京国立近代美術館＞令和3年6月18日（金）～9月26日（日）

The Exchange
（オーストラリア）2019
© Martin Mischkulnig

隈研吾は、日本の各時代・地方の文化的特性を巧みに組み合わせながら、その建築をつくりあげている。隈建築を知ることが日本の美意識や文化をより深く知ることに通じるという見地にたち、また日本ではまだ模型や写真が中心である建築展のレガシーとなることを目指し4Kや360度VRやプロジェクション・マッピングなど先端的な映像技術を多用したり、ポストコロナ以降の都市のあるべき姿を掲示する展示を行うことを試みた。

工藝ダイニング2021―工藝と食―

＜静岡県熱海市＞令和3年11月21日（日）～25日（木）
＜福岡県福岡市＞令和4年2月5日（土）

重要無形文化財保持者をはじめとする工芸作家の作品を実際に「使って楽しむ」こと、ユネスコの無形文化遺産に登録された「和食―日本人の伝統的な食文化」を「食べて楽しむ」ことを体現する。

メディア芸術に描かれる自然に向き合う

メディアアンビショントウキョウ2021（MAT2021）

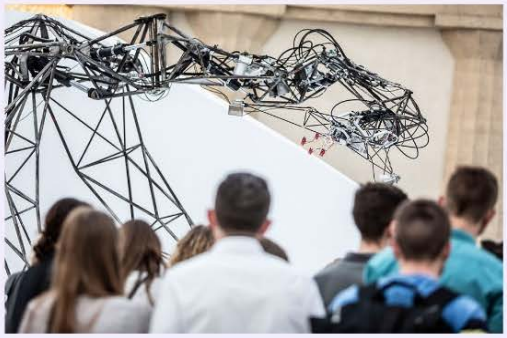
＜六本木ヒルズ（東京都）ほか＞
令和3年4月27日（火）～5月23日（日）

シナスタジアX1 - 2.44 <Hazo>／
シナスタジアラボ feat. evala (See by Your Ears)

Media Ambition Tokyo（MAT）は、これまで最先端のテクノロジーを実験的に都市に実装するリアルショーケースとして、過去8回開催。日々、進化していくテクノロジーとアート、映像、パフォーマンス、セミナー、ワークショップなどの積層的な展開を図る事により、多様なプログラムを内包するプラットフォームとして成長を続けている。
今年は六本木をメイン会場として最先端のテクノロジー×アートによる展示で、東京を文化で盛り上げる。

札幌国際芸術祭を核に地域の文化芸術資源を活用した文化芸術振興及び観光・地域経済活性化事業

＜モエレ沼公園、札幌市民交流プラザほか札幌市内各所＞
令和3年4月～令和4年3月



札幌国際芸術祭を通じた現代アート、メディアアートの普及や、国指定重要文化財「札幌市資料館（旧札幌控訴院）」等を活用した情報発信、SIAFラボによるメディアアートを軸としたプロジェクト、札幌の特徴である雪や北方圏の文化を題材としたアートイベントの開催等を通じ、札幌独自の文化や都市の魅力を国内外に広く発信するとともに、次回芸術祭開催を見据えた人材育成を行う。

※令和3年度採択事業のほか、令和3年度に実施される過年度採択事業も掲載しております。

主なラインナップ

自然にちなんだ伝統芸能、自然との関わりを描いた現代舞台芸術を観る

伝統芸能発見！　－Discover 伝統芸能－

＜国立劇場・国立能楽堂・国立文楽劇場・国立演芸場・伝統芸能情報館＞
令和3年6月～12月

「Discover KABUKI」 イメージ

訪日外国人、在日外国人、日本人の初心者の方々のために解説や多言語対応に配慮した「Discover KABUKI」「Discover NOH＆KYOGEN」や「Discover BUNRAKU」に加え、令和3年度は「Discover日本舞踊」「Discover邦楽」など、新規に対象分野を広げて提供する。

「竜宮 りゅうぐう」 ～亀の姫と季(とき)の庭～

＜新国立劇場（東京都）＞令和3年7月24日（土）～27日（火）

「竜宮　りゅうぐう」
第1幕より
（撮影：鹿摩隆司）

日本の御伽草子「浦島太郎」を基とした新作バレエを新国立劇場バレエ団が令和2年7月に世界初演。竜宮城に美しい四季の部屋があることや、玉手箱を開けて老人になった太郎が鶴になり、亀姫とともに夫婦明神となり長寿を願う鶴亀伝説に繋がるなど、よく知られているおとぎ話とは一味違うストーリーが幻想的な海と空を舞台に描かれる。

子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ「Super Angels　スーパーエンジェル」

オルタ3 (Supported by mixi, inc.)

＜新国立劇場（東京都）＞令和3年8月21日（土）・22日（日）

新国立劇場オペラ芸術監督・大野和士が総合プロデュース、自ら指揮し、様々なジャンルで幅広く活躍する作家・島田雅彦の台本、初音ミクオペラで海外からも注目を集める渋谷慶一郎の作曲により、これまでにない新しいオペラ作品を創出、AI（人工生命搭載アンドロイド「オルタ3」）と少年の友情が自然への回帰の意識を呼び覚まし、新たな未来への扉を開く物語を展開する。

大阪文化芸術フェス事業

＜万博記念公園ほか府内各所＞令和3年10月10日～令和3年11月中旬

大阪が誇る上方歌舞伎をはじめとする多彩で豊かな文化芸術や世界遺産等の文化財の魅力を広く国内外に発信し、インバウンドも含めた多くの観光客を呼び込むことで、国際エンターテイメント都市の実現を目指すとともに、大阪・関西万博につなげていく。

日本人と自然「春夏秋冬」「草木成仏」「花鳥風月」

＜国立能楽堂＞令和3年4月～6月

能「熊野　村雨留」
観世銕之丞

国立能楽堂の4～6月の公演は「月間特集　日本人と自然」として、4月〈春夏秋冬〉、5月〈草木成仏〉、6月〈花鳥風月〉、とそれぞれの月にテーマを据え、ゆかりの能・狂言の作品を集中的に上演する。能楽における日本人と自然をテーマとした特別展を同時開催。

寄席「笑楽座」2021

＜宮城県仙台市 ほか＞令和3年5月～令和4年3月

令和3年度は、寺社や東京タワー、博物館などのユニークベニューにおける舞台公演を企画実施するとともに、新たな映像配信技術「ビジュアルエンターテインメント」を用いることで国内外へのWEB配信を行い、コロナ禍の地方公演のやり方を模索・開拓していく。公演と中継技術を融合し、WEB配信用の動画でありながら実演らしさ、ライブ感を醸成する取り組みを目指す。

伝統芸能にみる「日本人と自然」

－伝統芸能の重層性と日本人の美意識と自然観を体感する－

＜国立劇場・国立能楽堂・国立文楽劇場・国立演芸場・伝統芸能情報館＞令和3年4月～令和4年3月

「舞踊」「邦楽」「雅楽」「声明」「民俗芸能」といった、国指定重要無形文化財などに指定され伝承されてきた日本の代表的な伝統芸能に若手から人間国宝が出演。解説書付きの公演や、古典と現代のコラボレーションによる新作として古典の伝承のみならず、新たな観客層の新規開拓や、古典芸能をベースに新たな表現の可能性を探る企画など幅広く上演する。

※令和3年度採択事業のほか、令和3年度に実施される過年度採択事業も掲載しております。

主なラインナップ

自然の中で文化を味わう

アース・セレブレーションを核とした佐渡の国際的フェスティバル展開事業

＜新潟県佐渡市＞令和3年4月～令和4年3月

島の豊かな自然の中で多様な文化を交錯させ、新しい地球文化を創造しようと毎年開催している「アース・セレブレーション」。
本事業では、国内でも歴史ある国際野外フェスティバルが核となり「さどの島銀河芸術祭」をはじめとする「佐渡固有の文化活用事業」主体者が連携し、全島を舞台にした国際的フェスティバルを展開する。

アース・セレブレーション実行委員会

神々の集う国 「出雲」 体験フェスタ ～日本博in出雲～

出雲神楽／大土地神楽保存会神楽方

＜島根県出雲市＞令和3年4月～令和4年3月

出雲の豊かな自然・歴史・文化を活かし、中世末から近世初期にかけて確立され脈々と受け継がれてきた「出雲神楽」、数々の有形無形の文化財で構成される「日本遺産 日が沈む聖地出雲」、日本最古の歴史書に天日隅宮（あめのひすみのみや）と記された「出雲大社」、「出雲発祥とされる様々な文化（ぜんざい、日本酒など）」を4本柱とした様々なコンテンツを同時に展開し、「出雲の自然・歴史・文化」と「日本の美」を、出雲を訪れた人々にまちあるき・市内周遊を通して体感いただくとともに様々なコンテンツを映像化し、ウェブサイト・SNSを通じて国内外に広く発信していく。

被災地復興

東北の6つの伝統的夏祭が一体となった「東北絆まつり」による東北の復興、魅力発信プロジェクト ～2020年を契機とした首都圏巡回プロモーション～

＜WEB、東京都＞令和3年4月～10月

「祭り」は、縄文の時代から日本人が持つ自然への祈りの精神等を表現したものであり、東北を代表する「青森ねぶた祭」「秋田竿燈まつり」「盛岡さんさ踊り」「山形花笠まつり」「仙台七夕まつり」「福島わらじまつり」も、東北の各地域に伝わる伝説や言い伝えをもとに、厄除けや五穀豊穣などの願いを込めて始まったと言われている、人々の生活や想いに根付く伝統的な文化である。
東日本大震災を機に鎮魂と復興を願い六つの祭りが連動・一体化し始まった「東北絆まつり」を活用し、世界から注目を集める復興五輪を契機として、首都圏会場にて巡回パフォーマンスを実施。

東北・新潟の復興と伝統文化の魅力を体験できる「東北ハウス」事業

＜アキバ・スクエア（東京都）＞令和3年7月22日（木）～8月7日（土）
＜WEB＞令和3年8月24日（火）～令和4年1月24日（月）

「東北ハウス」は、東日本大震災の発生から10年の節目に、「世界から寄せられた支援に対する感謝の気持ち」を伝え、「復興に向けて着実に歩んでいる元気で安心な東北の姿」、「日本の他地域では味わえない観光地“東北・新潟”の魅力」を世界中の皆さんに体験していただく、期間限定の情報発信拠点である。
「感謝」、「交流」、「明日へ」の3つのコンセプトで復興支援への感謝の気持ちと東北・新潟の魅力を世界へ発信する。

東北・新潟の魅力を発信する映像コンテンツ
「The View from TOHOKU & NIIGATA」

※令和3年度採択事業のほか、令和3年度に実施される過年度採択事業も掲載しております。

主なラインナップ

共生社会・多文化共生と自然

障害者の文化芸術創造拠点形成プロジェクト

＜国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）（大阪府）ほか＞　通年

国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）の完全バリアフリーの環境と誰もが文化芸術活動を享受できるノウハウ、障害者の国際交流ネットワークを最大限に活用し、誰もが文化芸術を享受できる環境の創出と開発整備の推進をプロジェクトを通じて実現する。日本・アジアで活躍する振付家、プロのダンサーと障害のあるダンサーが協働し、わが国の自然や伝統文化等をベースにした魅力ある大型ダンスプロジェクトを実施することによって誘客力のある障害者の国際文化芸術拠点形成と共生社会の実現へとつなげる。

DANCE DRAMA
プロモーション写真
撮影　冨田了平

日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバル

＜東北ブロック：岩手県、関東・甲信ブロック：埼玉県、近畿ブロック：滋賀県＞
令和3年4月1日（木）～令和4年3月31日（木）

石見神楽（いわみ福祉会芸能クラブ）

障害者の芸術表現、そして障害者がそれぞれの特性とともに生きる様には、今なお天然の色彩、音の風情を慈しむ心が強くにじみ出ている。これらの日本独自の精神文化として障害者の視点で「日本人の美」を国内外に発信する全国規模のプロジェクト。2020年2月に実施したグランドオープニングを皮切りに、全国7箇所で展覧会・舞台芸術等の様々な分野を発信するフェスティバルでは障害当事者団体や福祉の職能団体等からなる全国50万人と地方自治体等と連携を図りつつ、独自の文化を持つ地方からその魅力を発信する。

日本博特別企画「アイヌ文化フェスティバル」

＜札幌文化芸術劇場 hitaru（北海道）＞　令和3年9月18日（土）

アイヌ伝統舞踊（鶴の舞）

イランカラプテ！
アイヌ文化フェスティバルでは、全国からアイヌの伝承者が参集し、アイヌの伝統楽器であるムックリの演奏やアイヌの伝統舞踊を披露する。また、音楽公演として、アイヌのミュージシャンがアイヌの伝統を踏まえつつ現代音楽を取り入れて作った斬新なサウンドでアイヌ音楽の魅力を発信する。さらに、ミュージカル公演でアイヌと和人が共生できる道を探った松浦武四郎とアイヌの交わりを伝える。ステージ公演終了後、ダイジェスト版をインターネットにより配信することにより、より多くの方にアイヌ文化に触れていただく機会を提供する。

※令和3年度採択事業のほか、令和3年度に実施される過年度採択事業も掲載しております。